

会議録

会議の名称	第1回西東京市小中学校通学区域見直し等に関する向台・新町地域協議会
開催日時	平成21年8月27日(木曜日) 午後2時30分から4時まで
開催場所	田無第四中学校 図書室
出席者	委員：高野 富、倉掛 泉、藤田 真理、丸山 儀一、吉田 勉、大宮 真美江、高間館留美子、横道 美代子、高萩 幹寛、丸山 久美子、深田 章子、千葉 礼子、室伏 美奈子、橋本 有希、高谷 好文、石川 圭子、森田 朋恵、古海 牧子、北川 元昭、小林 薫、村松 昭栄、土方 孝一郎、福間 和正、荒井 信子、村上 奈緒子、嶋田 安民、木曾 友仁、山田 佐登美、山本 真弓、紺野 和子、二谷 保夫(欠席者：清水 豊保、今井 文男) 事務局：野崎 芳昭(教育長)、櫻井 勉(教育部教育企画課長)、清水 達美(教育部教育企画課企画調整係長)、佐藤 陽子(教育部教育企画課企画調整係主事)、後藤 幸男(教育部教育企画課学務係長)、山岡 昇(教育部教育企画課学務係主任)
議事	1 開会 2 教育長のあいさつ 3 委員の任命及び依頼 4 自己紹介 5 会長の指名 6 資料の説明 (1) これまでの経過(概要) (2) 学区域の現状 7 意見・質問 8 次回の開催日程 9 閉会
会議資料	資料 西東京市小中学校通学区域の見直しについて 資料1 学校施設適正規模・適正配置部内検討委員会報告書(概要版) 資料2 西東京市学校施設適正規模・適正配置検討懇談会提言書 資料3 西東京市学校施設適正規模・適正配置に関する基本方針 資料4 学校選択申立者アンケート 学校選択基準の推移 資料5 西東京市小中学校通学区域見直し等に関する地域協議会設置要綱 資料6 向台・新町地域協議会計画表(案) 資料7 新町地域の児童の就学状況等 小中学校別就学分布図
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>議事1・2 開会・教育長のあいさつ 野崎教育長より、第1回向台・新町地域協議会の開催にあたっての挨拶。</p> <p>議事3 委員の任命及び依頼 野崎教育長より、各委員に任命書(校長)及び依頼状(校長以外)を授与。</p> <p>議事4 自己紹介 各委員・事務局からかんたんな自己紹介。</p> <p>議事5 会長の指名 事務局より、資料5をもとに協議会の構成に触れた後、会長は教育長の指名により今井文男氏(田無第一中学校校長)をお願いする旨説明する。今井氏が欠席のため、副会長については次回決定する。また、資料6を参照し、今後のスケジュールについて概略をお伝えする。</p> <p>議事6 資料の説明 (1) これまでの経過(概要) 事務局より、資料1~3に沿って、通学区域見直しに関するこれまでの経過を説明。</p>	

(2) 学区域の現状

事務局より、資料4・7及び就学分布図をもとに学区域の現状を説明。

議事 7 意見・質問

委員：

特例措置、指定校変更、学校選択制の制度はいつごろできたのか？

事務局：

合併してからです。

委員：

これは防犯上、問題がある。例えば田無小学校では、600人中約100人が校区外から通っている。以前新町地区の防犯活動で、1年生を家へ送り戻ってきたら、まだ1人残っていた。その子供は柳沢小学校に通っていたが、家へ帰れば友達はみんな保谷第二小学校の子だという。引越しをして校区外から通う場合はやむをえないが、あまり分散していると防犯するのも難しい。

事務局：

柳沢小学校と保谷第二小学校は距離が近いので、指定校変更措置を取る人は少ないと思われる。ただし、新町地域は東西に伸びた形状をしているため、指定校は保谷第二小学校だが、西の端の方の子供たちは特例措置を使っている場合が多い。

今回、実態に即した新たな通学区域を設定することで、防犯面でも改善されると思われる。

委員：

資料2の15ページに(2)防災施設、地域コミュニティの視点(3)大規模マンション等の出現に対してとあるが、この点について検討したのか。例えば石川島播磨跡地のマンションによる児童数の予測などは把握しているのか。

また、特例措置、指定校変更、学校選択制といった制度は今後残すのか。

事務局：

まず1点目の児童数の推測については、マンションの売値による家族構成の違いなども考慮した上で過去の事例を参考に、概ね把握している。次回資料として提示します。

2点目の制度について、市境として特例措置を使っているケースは、今回の新しい通学区域の設定により解消できると考えている。学校選択制度については、より広い視点から捉え、例えば中学校では部活動を理由として選択する場合も多いので、残していく。さらに指定校変更も、新たな通学区域の成立後も引越し等の事例に対応するため、一定程度残す予定である。

委員：

中学校給食が始まるが、各校でまかなえる人数などを考えるべきではないか。

事務局：

通学区域の案ごとに、それが実施された場合の各学校の人数についてシミュレーションする必要がある。次回就学分布図を資料としてお配りし、案が成立したら、そのシミュレーションを提示したい。

委員：

学校によって人数に大きな偏りが出してしまうと良くないのではないか。教室数などを把握し、許容人数を確認したほうがよい。

事務局：

今後の児童生徒数の推移をみて、上限どこまで増えるか確認する。中長期的な人口推計では、ピーク到達後は減少するので、ピーク時に耐えられる教室数があるよう配分すればよい。使用可能な教室数については把握しているので、次回資料として提示する。

議事 8 次回の開催日程

事務局より、次回会議を 10 月中旬までに開催したいので、日程調整後連絡する旨お伝えする。

議事 9 閉会

二谷特命担当部長より、閉会にあたっての挨拶。

以上